

進捗状況の概要（1ページ以内）

平成 29 年度の進捗状況

学内の実施体制は、下図のとおりで、学長が直接管轄する「AP 実行委員会」を置き、月 1 回会議を行い、AP 事業の計画、実施、評価を行っている。また、学内の各委員会の中で特に「教務委員会」「FD・SD 委員会」と連携し、両委員会の委員長は AP 実行委員会の委員であり、カリキュラム・マネジメントでは教務委員会と、アクティブ・ラーニングの促進では FD・SD 委員会と連携を図っている。

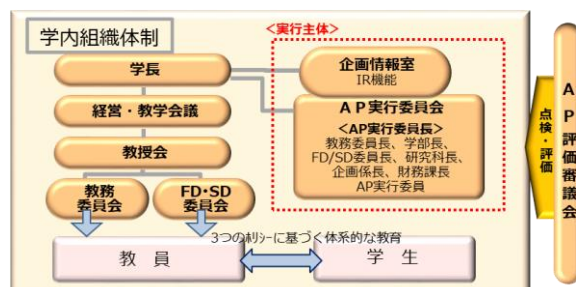


図 学内実施体制

中心となる取組として、3つ挙げる。まず、「看護職キャリアパス基礎スケール(仮称)の開発」である。これは、看護学生が就職して新人看護師として仕事をしていく時期において、キャリアの節目を乗り越えるために必要な能力・資質を測定できるスケールで、就職先の検討委員とともに作成した。29 年度末時点で調査（4 年次学生と看護師から 418 部回収）を終え、今後、スケールを完成させ、その活用の検討段階である。2 つ目に「ディプロマ・サプリメント（学位証明書補足資料）の作成」準備である。学生の成長の多面的な評価として、年次毎のディプロマポリシー（DP）のルーブリックと授業科目毎の到達目標に対する達成度評価、PROG テスト、学修 e-ポートフォリオ「夢・目標設定」のデータをシステム（ポータル）で整備し、データを蓄積中である。3 つ目は「アクティブ・ラーニングの促進」である。数回の FD・SD 研修会を開催するとともに、調査によるアクティブ・ラーニング実施率の把握まではできている。「Good アクティブ・ラーニング賞」等の選定のしくみを進める。

取組の成果として、カリキュラム・マネジメントの確立をめざして導入したアセスメント・システムにより、多面的評価を用いた「学修成果の可視化」の準備が整ったことである。具体的には、学生は自己のポータルにアクセスすると、履修状況をカリキュラムマップ上で『修得科目（成績を含む）』と『履修中の科目』が確認でき、修得単位、学期・年間・通算の GPA を見ることができる。さらに学生は、科目毎にシラバスに明記された到達目標の自己評価を入力することで、学修の達成度として、成績評価と自己評価が項目毎に累積されたレーダーチャートが確認できる。ここでの項目とは、本学カリキュラムの構成要素（人間、環境、健康、国際、看護の基盤、看護の展開と応用、看護の統合）である。多面的評価は他に、DP ルーブリック、PROG（リテラシーとコンピテンシー得点表示）がある。

補助期間終了後の継続発展に向けた取組は、上記の「学修成果の可視化」は、継続発展可能な取組であり、学生への学修支援のみならず、教員にとっては、担当科目毎に学生の自己評価と成績評価を比較することで授業評価・改善に活用でき、到達目標の妥当性も検証できる。従って、教育評価の PDCA サイクルに位置付けていくことができる。また、学生は、到達目標の到達度を自己評価することを通して、「自己を適切に評価できる能力」の育成につながる。

学内外への波及効果は、まず学内では、前述した「学修成果の可視化」のデータ蓄積は、卒業時の「ディプロマサプリメント」作成の目的で実施してきたが、学内教員から、在学生の学修支援用の「ディプロマサプリメント」作成への要望が出され検討課題となっており、波及効果と考える。学外では、「看護職キャリアパススケール」を大学と臨床現場との共同で作成しているが、「同じ目的・目標に向かった人材育成の協働」の機会となり得ていることが挙げられる。